

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国立療養所長島愛生園附属看護学校
設置者名	厚生労働省 厚生労働大臣 根元 匠

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
看護専門課程 (二年課程)	看護学科	夜・通信	11 単位	6 単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/school/index.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/school/index.html)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	国立療養所長島愛生園附属看護学校
設置者名	厚生労働省 厚生労働大臣 根元 匠

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	学校運営会議
役割	<p>学校運営の円滑化及び適正化を図るために、学校運営会議を設置している。</p> <p>(目的) 学校の円滑化及び適正な運営を図る。</p> <p>(審議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 学校の規程の制定改廃</li> <li>二 学校の予算の執行計画</li> <li>三 教育課程の編成に関する事項</li> <li>四 各年度の教育計画に関する事項</li> <li>五 学校の講師・実習施設の選定に関する事項</li> <li>六 学生の募集及び入学に関する事項</li> <li>七 学生の単位・卒業認定に関する事項</li> <li>八 学生の休学、復学、退学に関する事項</li> <li>九 転入学者の既習単位等の認定に関する事項</li> <li>十 学生の就職に関する事項</li> <li>十一 学校運営の評価に関する事項</li> <li>十二 学校の施設整備に関する事項</li> <li>十三 その他学校の運営に関し重要と認める事項</li> </ul> <p>(外部人材の役割) 多様な意見を反映させるため外部委員2名を学校長が任命し、外部委員自らの経験や役割を活かして学校運営に反映させることで、更なる学校運営の適正化が図られることを期待する。</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
国立療養所長島愛生園 看護師長	1年	講師・実習指導者
国立療養所長島愛生園 副看護師長	1年	講師・実習指導者
(備考) 任期については原則1年間とし、毎年更新する。		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国立療養所長島愛生園附属看護学校
設置者名	厚生労働省 厚生労働大臣 根元 匠

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【授業に関する】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に関する事項(時間割・授業内容及び方法・進行についてカリキュラム担当者、1年生担任、2年生担任、教育主事が教官会議(1回/週)で検討する。</li> <li>・ 授業計画書(シラバス)は、授業終了後の学生による授業評価、講師による授業評価、テキストの改訂内容や国家試験出題基準をふまえた検討を行い毎年3月に改訂する。</li> <li>・ シラバスには、科目名、時間数、単位数、担当講師名、学年、開港年次、科目目的、科目目標、授業計画、授業内容、授業方法、准看護学校での授業内容、教科書、参考書、評価方法を記載している。さらに教育課程進捗計画と評価計画を明示している。</li> </ul>	
【実習に関する】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習に関する事項(実習計画、実習要綱、実習指導、実習評価等)を検討するため教官会議(1回/週)を開催する。</li> <li>・ 実習要綱は、指導者による評価、看護技術経験状況等を振り返り改訂する。実習要綱には、科目名、実習目的、実習目標、行動目標、学習内容、実習方法、実習評価基準を記載する。</li> </ul>	
【その他】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生便覧に、成績評価の基準について記載する。(優:80点以上、良:70点から79点、可:60点から69点及び不可:60点未満とし、可以上を合格とする。)</li> <li>・ 4月に学生便覧、授業計画書(シラバス)、実習要綱を各学生に配布し、履修についての説明を行い、学校ホームページでシラバスを公表する。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/hansen/aiseien/school/index.html">https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/hansen/aiseien/school/index.html</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

**【授業科目の評価】**

- ・評価基準をシラバス内に記載して、基準に則り適正に評価している。評価基準は「筆記試験」「レポート提出」「実技試験」「出席状況」「授業態度」「グループ/発表成果」があり、科目評価をどの方法で行うかを示している。
- ・実技試験においては評価基準を設け、事前に学生に説明し、技術試験の前に教官間で評価の視点について検討し共通理解をして実施する。実技試験の結果は、評価会議で検討し、客観的な評価を行っている。
- ・実習においては、実習評価表に評価項目および評価基準を記載している。評価は、教官と臨床実習指導者と協議している。
- ・入学時や終了試験前、実習前オリエンテーションにおいて学習内容の位置づけや進級に関する項目について学生にガイダンスしている。

**【単位の認定】**

- ・単位の認定は、学生便覧に記載している学則・学則細則・履修規程に単位認定基準を掲載している。3月に学校運営会議（履修認定）を開催し、単位の認定を行い、単位の修得状況について学生に通知している。
- ・単位の認定については学則第18条及び学則細則第11条に定める。内容は以下の通りである。

(授業科目の評価及び単位修得の認定)

学則第18条 単位修得の認定は、講義、実習等に必要な時間の取得状況と当該科目の評価により行う。

- 2 出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受ける資格を失う。
- 3 授業科目の評価は優（80点以上）、良（70点から79点）、可（60点から69点）及び不可（60点未満）とし、可以上を合格とする。
- 4 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることのできなかつた者又は不合格の者に対しては、追試験又は再試験を行うことができる。

(授業科目の評価及び単位修得の認定)

学則細則第11条 学則第18条第1項の単位修得の認定に関する事項は、履修規程に定める。

- 2 学則第18条第1項の単位修得の認定は、当該科目の試験（学習状況、学習報告等を含む）及び実習評価に基づく。
- 3 学則第18条第2項に該当する者は、手続きを行い次年度当該科目を履修し、評価を受ける。
- 4 終了試験及び実習評価は、60点以上ある場合を合格とする。これに満たなかつた者は再試験及び再実習を受けることができる。
- 5 再試験が不合格（60点未満）の者は、次年度当該科目の試験を受けることができる。
- 6 再実習の評価が不合格（60点未満）の者は、次年度当該科目の臨地実習を受けることができる。
- 7 学則第18条第4項にかかる病気その他やむを得ない理由により試験を受けることのできなかつた者は、追試験を受けることができる。
- 8 学則第18条第4項にかかる病気その他やむを得ない理由により、出席時間が3分の2に満たないため臨地実習の評価を受けることのできなかつた者は、追実習を行い、評価を受けることができる。
- 9 追試験・追実習を受けることができるのは、次の各号に掲げる場合とする。
  - 一 病気、負傷
  - 二 災害
  - 三 交通事故
  - 四 3親等以内の葬儀
  - 五 その他学校長が認める理由
- 10 追試験・追実習の結果、不合格の者は、再試験または再実習を受けることができる。

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の授業科目の評価及び単位修得の認定については、学則第 18 条及び学則細則 11 条に定めており、出席時数が授業時数の 3 分の 2 に達しない者は、その科目について評価を受ける資格を失うこと、授業科目の評価は全科目評価を点数化し、優 (80 点以上)、良 (70 点から 79 点)、可 (60 点から 69 点) 及び不可 (60 点未満) とし、可以上を合格としている。</li> <li>・更にG P A (Grade Point Average) を導入して、各学生の履修登録科目の成績評価をグレード・ポイント (G P) に変換し、G Pに当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修総単位数で除した値をG P Aとします。高等学校の評定平均のように、学業結果を総合的に判断する指標として役立ち、従来の修得単位数という量的な判断に加えて、質的な観点からの判断材料になると考える。</li> <li>・平成 30 年度 41 期生 (第 1 学年) のG P A算定に基づく成績評価は別紙のとおりである。下位 1/4 に該当する人数は 3 人、及び、下位 1/4 に該当する指標の数値を示した。</li> </ul>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/hansen/aiseien/school/index.html">https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/hansen/aiseien/school/index.html</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><b>【卒業の認定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学則第 24 条において、学校長は、第 17 条に定める授業科目の単位の修得の認定を受けた者について、2 月の学校運営会議の議を経て、卒業を認定すると定めている。</li> <li>・卒業の認定については学則第 24 条及び学則細則第 22 条に定める。内容は以下の通りである。</li> </ul> <p>(授業科目、単位数及び時間数)</p> <p>学則第 17 条 本学校における授業科目、単位数及び時間数は、別表のとおりとする。</p> <p>2 別表中、講義及び演習については、15 時間から 30 時間、実験、実習及び実技については 30 時間から 45 時間、臨地実習については、45 時間をもって 1 単位とする。</p> <p>(卒業)</p> <p>学則第 24 条 学校長は、第 17 条に定める授業科目の単位の修得の認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て、卒業を認定する。</p> <p>2 学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。</p> <p>(卒業認定)</p> <p>学則細則第 22 条 卒業の認定にあたっては本校の教育課程を修了した者で、次の各号に該当する者に対して学校運営会議の議を経て決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一 本学校の定める授業科目、単位数 (時間数) を修得した者。</li> <li>二 授業科目の各々の単位を認定された者。</li> <li>三 修業年限 2 年、又は在学年限内の者。</li> <li>四 出席日数が各学年の出席すべき日数の 3 分の 2 以上の者。</li> </ol>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p><a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/hansen/aiseien/school/index.html">https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/hansen/aiseien/school/index.html</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国立療養所長島愛生園附属看護学校
設置者名	厚生労働省 厚生労働大臣 根元 匠

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		看護専門課程	看護学科（二年課程）	医療専門課程	なし		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼夜	2,190時間/71単位 単位時間/単位	1275時間 /48単位	195時間 /7単位	720時間 /16単位	0時間/ 0単位	0時間/ 0単位
	昼間		単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		21人	0人	7人	0人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【授業に関する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する事項（時間割・授業内容及び方法・進行についてカリキュラム担当者、1年生担任、2年生担任、教育主事が教官会議（1回/週）で検討する。</li> <li>・授業計画書（シラバス）は、授業終了後の学生による授業評価、講師による授業評価、テキストの改訂内容や国家試験出題基準をふまえた検討を行い毎年3月に改訂する。</li> <li>・シラバスには、科目名、時間数、単位数、担当講師名、学年、開講年次、科目目的、科目目標、授業計画、授業内容、授業方法、准看護学校での授業内容、教科書、参考書、評価方法を記載している。さらに教育課程進度計画と評価計画を明示している。</li> </ul> <p>【実習に関する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に関する事項（実習計画、実習要綱、実習指導、実習評価等）を検討するため教官会議（1回/週）を開催する。</li> <li>・実習要綱は、指導者による評価、看護技術経験状況等を振り返り改訂する。実習要綱には、科目名、実習目的、実習目標、行動目標、学習内容、実習方法、実習評価基準を記載する。</li> </ul>

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p><b>【授業科目の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準をシラバス内に記載して、基準に則り適正に評価している。評価基準は「筆記試験」「レポート提出」「実技試験」「出席状況」「授業態度」「グループ/発表成果」があり、科目評価をどの方法で行うかを示している。</li> <li>・実技試験においては評価基準を設け、事前に学生に説明し、技術試験の前に教官間で評価の視点について検討し共通理解をして実施する。実技試験の結果は、評価会議で検討し、客観的な評価を行っている。</li> <li>・実習においては、実習評価表に評価項目および評価基準を記載している。評価は、教官と臨床実習指導者と協議している。</li> <li>・入学時や終了試験前、実習前オリエンテーションにおいて学習内容の位置づけや進級に関する項目について学生にガイダンスしている。</li> <li>・学生便覧に、成績評価の基準について記載する。(優：80点以上、良：70点から79点、可：60点から69点及び不可：60点未満とし、可以上を合格とする。)</li> <li>・4月に学生便覧、授業計画書(シラバス)、実習要綱を各学生に配布し、履修についての説明を行い、学校ホームページでシラバスを公表する。</li> </ul>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p><b>【単位の認定、卒業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位の認定は、学生便覧に記載している学則・学則細則・履修規程に単位認定基準を掲載している。3月に学校運営会議(履修認定)を開催し、単位の認定を行い、単位の修得状況について学生に通知している。</li> <li>・卒業は、学則・学則細則に卒業の認定について定め、2月の学校運営会議において卒業の認定を行っている。</li> </ul>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p><b>【1年次】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時の新入生ガイダンス</li> <li>・クラス担任による面接(5月、7月、10月基礎看護学実習前、2月進級前)</li> <li>・国家試験に向けての学習方法の確認、模擬試験実施後の結果分析をして個別指導</li> <li>・長期休暇中に過去の国家試験問題の実施と解剖生理学の強化</li> </ul> <p><b>【2年次】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による面接(第1学期、第2学期、必要時)</li> <li>・就職支援活動支援</li> <li>・国家試験に向けての学習方法の確認、模擬試験実施後の結果分析をして個別指導</li> <li>・国家試験対策についてはチューター制をとり、全教員による個別の学習支援</li> </ul> <p><b>【経済的支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学生支援機構、母体病院の育英資金制度、各県・施設の奨学金制度</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーによるカウンセリングを2回/月実施(希望者)</li> <li>・学生寮の完備(個室、冷暖房完備)</li> <li>・パソコンの貸与、Wi-Fi設備あり各自インターネット使用可能</li> <li>・既習科目認定制度</li> <li>・学生生活における傷害事故、賠償責任、実習中の感染事故に関する保険に加入</li> <li>・院外実習時の実習地への送迎バス対応</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	14人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 看護師（国立病院機構、公的病院等）			
(就職指導内容) <b>【1年次】</b> ・2月進路調査 ・クラス担任による面接、病院見学やインターンシップの相談を実施 <b>【2年次】</b> ・4月就職ガイダンス ・4月クラス担任による面接、病院見学やインターンシップの相談を実施 ・就職先決定について相談があれば適宜実施 ・履歴書、小論文の書き方指導、模擬面接実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・看護師国家試験受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	5%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーによるカウンセリングの実施（2回/週、希望者） ・クラス担任による個別面談、個別支援 ・実習指導担当教官による支援 ・成績低迷者、希望者に対する学習支援		



②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科	172,000 円	300,000 円	0 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/school/index.html">https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/school/index.html</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校相互評価実施規程並びに全国国立病院附属看護学校副学校長教育主事協議会中国四国支部規程に基づき、教育の質の向上及び学校経営の維持・安定化を図るため、以下の①・②を実施している。 ①教員による自己点検自己評価 (「教育理念・教育目的・教育目標」「教育課程経営」「教授・学習・評価過程」「経営・管理過程」「入学」「卒業・就業・進学」「地域社会/国際交流」「研究」)の結果について、前回実施結果と比較分析 ③学校相互評価の実施 (3年に1回)、評価者に国立病院機構の学校管理者4~5名及び国立病院以外に学校管理者1~2名を評価者に入れ、相互評価 (「教育理念・教育目的・教育目標」「教育課程経営」「教授・学習・評価過程」「経営・管理過程」「入学」「卒業・就業・進学」「地域社会/国際交流」「研究」)の結果について、前回実施結果と比較分析 また、卒業時に学生による学校評価に関するアンケートを実施しての分析後、次年度に向けての課題の抽出、改善策を教員会議で検討している。 学校関係者評価委員会については、現在体制を整備しており、2020年5月までに評価結果を公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
国立療養所長島愛生園	2019.10.1~2020.3.31	院内講師 (看護師長)
国立療養所長島愛生園	2019.10.1~2020.3.31	卒業生 (副看護師長)
国立療養所長島愛生園	2019.10.1~2020.3.31	卒業生 (副看護師長)
なし	2019.10.1~2020.3.31	院外講師・元中学校校長・元大学教授
学校関係者評価結果の公表方法 <a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/s">https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/s</a>		

<a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/hansen/aiseien/school/index.html">chool/index.html</a>
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/hansen/aiseien/school/index.html">https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/hansen/aiseien/school/index.html</a>
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/hansen/aiseien/school/index.html">https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/hansen/aiseien/school/index.html</a>
--